

## 米国学会参加、CSU 訪問レポート(2018/2/3~7,2/8~11)

TMC 院長 野内正太 (19 年目)

### ● 始めに

今回、2018 年度 Veterinary Meeting& Expo (以下、VMX)、およびコロラド州立獣医科大学、北海道大学、大阪府立大学間で行われる専門医資格認証プログラムに関するミーティングを行うために、加藤院長と米国出張に同行させて頂く貴重な機会を得た。その概要を報告する。

### ● VMX 2018 in Orlando Florida (2018/2/3~7)

VMX は、North American veterinary community(以下、NAVC) annual conference と American Animal Hospital Association (以下、AAHA) annual conference が今期より共同開催されることになり、世界最大規模の一般臨床家向けの獣医学会である。参加者は北米を中心として中南米、欧州から合計 1 万 8000 人のぼり、協賛企業は 700、開催される学術セミナーは小動物・大動物・爬虫類臨床を始めとしてホスピタルマネジメント、ヒューマンアニマルボンドと多岐にわたり、第一線で活躍する講師陣によって 1 セッション 50 分間、合計 476 セッションが 5 日間にわたり行われる。会場はオレンジカントリー・コンベンションセンター、ヒルトンホテル・オーランド、ローゼンセンターホテルの 3 カ所で開催されており、施設間移動に徒歩で 15 分程度を要する為、受講したいセミナーをあらかじめ選定して効率よく移動計画を立てておく必要がある。また、参加者の年齢層が日本で開催される学会よりも幅広く(20 代後半から 60 代前半?)、州によっては獣医師免許の更新に継続教育の受講が義務化されているためとのことを加藤院長からご教示頂いた。このことは米国における AVMA を中心としたオーガナイズドメディスンが機能しており、獣医学教育の継続性と質の担保が確保されている理由と感じられた。

VMX 開催初日に加藤院長とモーニングビュッフェ会場に赴いたところ、Dr.Paul Gambardella 夫妻とお会いする機会を得た。Dr.Paul Gambardella は American college of Veterinary Surgeons(以下、ACVS)元会長、ボストンの Angell animal medical center 初代院長であり、現在はニュージャージー州随一の中核動物病院である Oradell animal hospital 院長である。就任されていたボストンの Angell animal medical center は設立後 100 年以上の歴史をもち、1940 年代に動物病院として初めての無菌的外科手術と獣医師のインターンシッププログラムを開始した、米国獣医専門医制度の確立に最も貢献した病院のひとつである事を加藤院長からご教示頂いた。また、元 AAHA 会長の Dr.Michael Cavanaugh がご挨拶に来られ、加藤院長のこれまでに培

われてこられた米国獣医療界との貴重な関係性を再度認識し、身に余る光栄を感じるとともに引き締まる思いであった。

開催初日の夜間にオープニングパーティが 3000 人収容の大ホールで行われた。1980 年代に公開された映画「バック・トゥ・ザ・フューチャー」とタイアップした映像制作と現 AAHA 会長の出演、パーキンソン病の闘病をしているマイケル・J・フォックスが登場し、現 AAHA 会長と対談、最後は会場全体がスタンディングオベーションという催し物が行われた。日本と比較して米国獣医業界の市場規模の大きさが窺い知れる豪華な演出であった。

受講した学術セミナーは、ジョージア大学 Dr.Sam Franklin による膝蓋骨内方脱臼の外科的整復術 1,2、フロリダ大学 Dr.Kim Stanley による絶対に失敗しない大腿骨頭切除術、誤診をしない鎮静下関節のストレス撮影法、オクラホマ大学 Dr.Laura Nafe による気管ステントの適応、パデュー大学 Dr. J.Catharine Scott-Moncrieff による猫の糖尿病アップデート、コロラド大学 Dr.Lapinn による猫の上部気道感染症アップデート、ミズーリ大学 Dr.Carol Reinero による猫喘息アップデートである。内容については後日院内でのフィードバックセミナーを開催予定である。英語のリスニング能力向上に更なる努力が必要と痛感したが、スライドの文字を追いかけてながらほぼ内容を理解することができた。日々臨床業務においてカルテの記載を英語にする他、リスニング力と会話力の向上に努めたい。

セミナー受講を終え、700 もの企業展示会場へ加藤院長と共に向かう。今後、当院でも強化してゆく内視鏡外科器具、インターベンション関連の器材を視察、化学療法剤の動脈注入・血液透析・腹膜透析に必要なカテーテル類のサンプル購入、加藤院長が懇意にしておられる Sontec Instruments 社のブースへご挨拶。Sontec Instruments 社は 40 年以上の歴史を持つ家族経営の高級外科器具の老舗であり、コロラド州デンバーを拠点として、精巧な器具加工技術を特徴とし、外科医ならば誰もが知っている、そして持ちたい外科器具メーカーである。

5 日間の VMX を終え、コロラド州立獣医科大学（以下、CSU）のあるフォートコリンズへ移動。

## ● CSU 訪問（2/8～11）

CSU head quarter ではリサーチ部門の副学長 Dr.Alan S.Rudolph ,アシスタントデ

イレクターDr.Scot T.Allen, コーディネーター Max 松浦氏と面談。今後、バイオメディカルサイエンスは、医学、獣医学、工学とのコラボレーションの推進が重要であり、具体的には人工血液研究が有望であること、そして結実した場合には医療において相当なインパクトである一方で、人と動物と自然を大切にするという加藤院長の理念に共通する重要な課題であるとの認識を共有した。

CSU Veterinary Teaching Hospital (以下、VTH)で VTH 病院長 Dr.Hackett と面談。

Dean's office で学部長 Dr.Mark Stetter と面談。(Max 松浦氏同席) 今年の 10 月 5 日・6 日に、デンバーとフォートコリンズでそれぞれ Zoobiquity symposium を開催予定。以前 TED でキーノートスピーカーである UCLA Prof. Dr.Barbara Natterson-Horowitz を招聘してコロラド医科大学、獣医科大学で共同開催するため、是非、加藤院長もご招待したいとお誘い。獣医学部長 Dr.Mark Stetter 氏の今年的重要業務として日本との学術交流の深化を挙げられていた。

Dean's office で専務理事 Thom Hadley 氏と面談。(Max 松浦氏同席) 現在、コロラド医科大学と獣医科大学の間で学術交流プロジェクトが推進されている。具体的には過疎地における人間の予防接種時に同じ場所で犬の予防接種も行うというもので、そこで得られたデータをもとに獣医師が医科の PhD が取得できるというものである。Thom Hadley 氏曰く、これまでの常識では考えられないことで、本格的な「One Medicine」の潮流を感じずにはおれないとのことであった。また、Translational Reserch Center が今年の 11 月にオープンするが、器材を搬入したプレオープンが 10 月には可能なので、Zoobiquity symposium への参加に合わせて公開可能であるとのこと。

The Moote House(CSU staff に有名なアメリカンレストラン)で昼食、CSU で教鞭をとられている放射線生物学助教授 加藤宝光先生、(Max 松浦氏同席) と、これからの放射線生物学について、陽子線あるいは重粒子線のどちらが腫瘍治療効果や局所制御率に優れているかの最新の知見を伺う機会を得たとともに、談話。

Research Office で Ms.Melissa J.Hein による E-thority のデモ(Max 松浦氏同席)。患者情報を共有することのできるソフトの概略と操作説明。CSU で行っている治療・処方インターネット経由でいつでも閲覧できるシステム。

Dr,William Lance ご夫妻のご自宅ヘディナー。Dr.Piermattei の奥様、(Max 松浦氏同席) Dr,William Lanc は加藤院長が初めて CSU に滞在した時に Dr.Piermattei より紹介された野生動物の経口接種型ワクチン開発の第 1 人者であり、現在は Wild

Animal Pharmaceuticals Inc. 社（野生動物に対する鎮静麻酔薬を扱う企業）を経営。30年前には米軍関連のお仕事で数年間の在日経験もある親日家、奥様はシューティングとインテリアがご趣味。広大な敷地にラバを2頭とミニチュアシュナウザー、長毛の大型犬と生活され、非常に暖かくお招き頂いた。加藤院長との再会はなんと30年ぶりとのこと。

Research Office で Dr.Christianne Magee より現在開発中のバーチャルリアリティの解剖学テキストのデモを見学。

Dr.Twedt と面談(Max 松浦氏同席)、今秋完成予定の Translational Reserch Center (以下、TRC) の完成図 3D 動画デモを拝見させて頂く。

Max 松浦ご夫妻のご自宅でディナーのお招きに与る。現在の動物医療保険会社の成り立ちや歴史について、これまで知りえないエピソードについて加藤院長からお聞きする機会を得て大変興味深かった。

CSU annual 1870 dinner に専務理事 Thom Hadley ご夫妻と参加させて頂いた。総長の Dr.Tony Frank より直々に加藤院長が日米交流に関するこれまでの貢献を評価され、記念盾の贈呈を受けた。

CSU は獣医学に限らず建築、数学、経営、バイオエンジニアリング等、多種多様な分野で世界に向けて優秀な人材を輩出しており、その卒業生は再び寄付を還元することによって寄付の継続性と CSU の歴史が醸成されている。日本でも見習うべき文化であると感じた。

偶然にも、同席させて頂いたご夫妻がなんと CSU の元 Orthopedic surgeon である Dr.Egger の妹様であり、拙い英語会話力ながら会話が弾んだ。

今回の CSU 訪問は、これまでの CSUVTH 研修とは異なり常に加藤院長と同行し、各部門の重要なキーパーソンと面談させて頂く機会を得て、米国獣医業界における強い影響力を感じずにはおれないばかりか日本の獣医療界に大きな潮流をもたらす瞬間に立ち合わせて頂く光栄を実感することができた。本当に素晴らしい体験であった。



専務理事：Thom Hadley 夫妻



総長：Dr.Tony Frank から盾の贈呈



Dr.Rodney Page (cancer center)



Mrs.Jill Borst & Mr.Ted Borst  
(Dr.Egger's sister)

CSU annual 1870 dinner

